文化薫道（ぶんかくんどう）

◆其の百三十二

なぜ、こんなに大（おお）きく描（えが）いた？

写真右側の大きく赤と黒で描かれた、砂時計のような絵は何に見えますか？

これは、原田にある五郎山古墳の壁画の一部です。



▲五郎山古墳壁画の靱（CG加工）

五郎山古墳は、約1400年前につくられた有力者の墓で、石室の中には、赤・黒・緑の3色で、人物や船、武具など、さまざまな装飾が描かれています。

砂時計のような形をした装飾は、「靱（ゆぎ）」と呼ばれる武具で、矢を入れ、背負って持ち運ぶための道具です。

ところが、この靱は、人物よりも大きく描かれています。本来は人が身につけて使う道具なのに、なぜこれほど大きく表現されたのでしょうか。

その理由は、はっきりとは分かっていませんが、装飾古墳では、靱などの武具に死者を守ったり、邪気を遠ざけたりする力があると考えられており、靱を人物よりも大きく、目立つように描くことで、死者を守る武具としての重要性や力を示したのかも知れません。

装飾の大きさに注目すると、古墳時代の人々が靱に込めた思いを想像できるのではないでしょうか。ぜひ、五郎山古墳館の実物大石室模型を見に来てください。

問 文化財課

Chikushino No.1247
2026年12月号
発行／筑紫野市　編集／秘書広報課　ホームページ／https://www.city.chikushino.fukuoka.jp/
〒818-8686 福岡県筑紫野市石崎一丁目1番1号 ☎092(923)1111 FAX092(923)5391
印刷／久野印刷株式会社
発行部数／45,500部

筑紫野市公式SNS
フェイスブック　X(旧ツイッター)　LINE　Instagram